

# インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）センシュウ	フリガナ）ケイザイ	フリガナ）ジョ イチエイ
専修大学	経済学部	徐 一睿 ゼミ

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）ジョビロセンシュウ	フリガナ）オガワ ショウジロウ	6	無
ジョビロ専修	小川 正二郎		

## 研究テーマ（発表タイトル）

釧路再生案～新エネルギーによる雇用創出～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

私たち専修大学徐ゼミでは、地域振興・地域再生について研究をしている中で、消滅可能性都市の1つに北海道釧路市が入っていることを知った。釧路市ではかつての主要産業が衰退し、今では生活保護受給率が全国一という現状があるため、持続的な産業と雇用の創出が早急の課題であると考えた。

そこで私たちは、生活していくうえで必要な“エネルギー産業”を軸とした、釧路市地域再生プランを提案する。

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

釧路市は、炭鉱業や水産業を軸として発展していった街で、道東の主要都市として存立していた。しかし、環境問題による、石炭需要の低下や炭鉱の相次ぐ閉鉱、200 海里問題による海域制限が重なり、主要産業が衰退していった。これを受けて、生活保護受給者数の増加や人口の転出が増加、雇用の場の減少と負のスパイラルから抜け出せない状況にある。

新たな雇用の創出を図るには、新たな産業を生み出すか、現在既にある産業を蘇らせていくかという二択しかないが、釧路市には新たな産業を生み出すほどの経済的余裕もない。

現在釧路市では観光業に注力していて、観光客数の一定の伸びは確認できているが、観光業は国内外問わず、それぞれの国の経済状況などに左右されてしまう。そのため、産業としての持続性、安定性に不安が残る。

釧路市について更に調べていく中で、釧路市では自然エネルギーを活用した発電方法が豊富にあることが分かった。温泉地による地熱発電、日射率の高さから大規模な太陽光発電、雪の降る地域ならではの雪氷熱発電、牧場地帯やパルプ産業の工場地帯によるバイオマス発電や小水力発電などである。また、石炭に木質バイオマスを混ぜて混焼する石炭バイオマス発電所も建設される予定である。

そこで私たちは、この豊富にあるエネルギー産業を活用して、雇用の創出を図ることにした。

### 3. 研究テーマの課題

釧路市で再生可能エネルギーを展開していくにあたって2つの課題が存在する。

1つが電力小売業者の不在、2つ目が資金問題である。具体的には、まず電力小売り事業者について、再生可能エネルギ

ーの先進国であるドイツでは実際に雇用創出に成功している。成功した大きな理由の1つにシュタットベルケという電力の小売り事業者の存在がある。しかし、日本にはシュタットベルケのような地域に根付いた小売り事業者は存在しない。そのため現状では、日本国内で生産した再生可能エネルギーは大手電力会社に売電している状態である。また、近年大手電力会社は、電力自由化に伴う電力の供給過剰を防ぐために再生可能エネルギーの購入を渋る傾向にある。結果的に今の日本では、再生可能エネルギーを生産しても売れにくく、利益を上げにくい状況にある。

2つ目に資金問題である。生産した再生可能エネルギーを大手電力会社に販売するには送電線が必要となる。その送電線の敷設・維持・管理にかかる費用は個人負担となる。また、発電施設を建設する際にも莫大な費用が必要となる。これらの費用には国や自治体からの補助金が出てくるが、それでも個人で負担するには厳しい。そのため個人的に再生可能エネルギー事業を展開するには初期費用等の資金問題に直面し、事業展開を諦める人が多いのが現状である。

#### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

バイオマス発電中心のエネルギー産業による波及的雇用の創出の提案である。まず釧路市に、家畜の糞尿を原料に用いるバイオマス発電のプラントを建設する。糞尿を用いることで悪臭問題・土壌汚染といった環境問題の解決にもなる。行政と酪農家たちが協力しあって資金を捻出する。そうすることで初期投資のリスクを軽減し、プラント管理やメンテナンスといった新たな雇用を創出する。プラントで作成した電気は基本的に自身のプラント運転に使用し、余剰部分を電気の小売り業者に販売する。プラントから買った電力を、小売り業者は「発電者のわかる電気」として販売。需要家は「顔の見える野菜」同様、「顔の見える電力」として購入。需要家は契約の状況に応じて特典(特産物のプレゼントや農場見学等)を得られる。電力の供給者にとっては「自分の存在や持ち味をアピールできる機会」として活用できる。この仕組みにより電力を通じて地域とかかわりを持つことができ、地域内循環のきっかけができる。

発電で生み出された利益を元手に、インフラ事業や観光事業に投資、また新たに雇用を創出する。このようにバイオマス発電中心のエネルギー事業を始めとした一連の流れにより、釧路市の雇用創出を実現する。

#### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

【調査一覧】釧路市について、地方再生方法、シュタットベルケ、釧路市への導入方法

【インタビュー】みんな電力株式会社、野村牧場様、釧路市役所

我々は上記の解決策の実現可能性の調査として、電力の自由化に伴って生まれた電力会社、みんな電力様へインタビューを行った。この企業は需要家が支援する自然エネルギー事業者を自由に選べるシステムを展開しており、それによって生まれる電力供給以外の付加価値を重視している。付加価値を通して、事業者は電力事業とその地の特産物を同時に発信することができる。この発電事業者と需要家がつながりを持つシステムは、電力の地産地消への足掛かりとなると考えた。

また、釧路市にてバイオマス発電を展開している野村牧場様へ現地インタビューを行った。バイオマス発電は電力だけでなく、家畜の糞尿の臭い問題を解消することができ、メリットは多いが、膨大な初期コストと、北電へ売電することができないという問題点から積極的に導入する農家が少ないという現状が分かった。

さらに、釧路市役所都市経営課の方々和我々の提案に関して議論を行った。議論の結果、太陽光発電や風力発電は建設後の管理の必要性が低く、雇用創出性が低いことが分かった。しかし、十勝で展開しているバイオマス事業は、地域の協力により、エネルギーの地産地消を実現していることが分かった。十勝におけるバイオマス事業展開と、みんな電力様のような発電事業者を需要家が支援できるシステムを組み合わせることで、釧路市においてもバイオマス事業の六次産業化が可能ではないかと考えた。

#### 6. 結果や今後の取り組み

電力自由化及び新エネルギーによる六次産業化は大きなビジネスチャンスを含めており、十分将来性がある事業であるとヒアリングを通じて確信した。しかし、日本の電力事業はまだ発展の初期段階にしか過ぎない。今後、地域、行政、民間、企業、大学、産学官で連携して取り組んでいかなければならない大きな問題であると認識している。

我々はまだ不十分な提案しかできていないが、それを一つの切り口として日本の電力自由化の未来と地域振興を考えていきたい。今回得られた知見を無駄にせず取り組み、協力していただいた釧路市、野村牧場様、みんな電力株式会社様の意見等々をフォローアップしていきたい。

#### 7. 参考文献

北海道釧路市ホームページ「釧路市地域エネルギービジョン」(2016年5月2日)

<http://www.city.kushiro.lg.jp/common/000015324.pdf>

北海道ホームページ「生活保護実施概要平成24年度版」(2016年5月2日)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/feg/24gaiyou1a.pdf>

バイオマス産業都市 帯広市ホームページ「十勝バイオマス産業都市構想」(2016年9月5日)

[http://www.city.obihiro.hokkaido.jp/sangyoubizinesu/foodvalley\\_index.data/20130611.pdf](http://www.city.obihiro.hokkaido.jp/sangyoubizinesu/foodvalley_index.data/20130611.pdf)

北海道釧路市ホームページ「釧路市バイオマス産業都市構想 2014」(2016年9月5日)

[http://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/pdf/01\\_kushiro.pdf](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/pdf/01_kushiro.pdf)

環境省「ドイツにおける再生可能エネルギーの導入促進施策等に関する動向調査業務報告書」(2016年6月3日)

[http://funtoshare.env.go.jp/roadmap/media/germany\\_201303\\_all.pdf](http://funtoshare.env.go.jp/roadmap/media/germany_201303_all.pdf)

シュタットベルケ

瀧口 信一郎「地方創生とエネルギー自由化で立ち上がる地域エネルギー事業」(2016年7月10日)

<https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/jrireview/pdf/8180.pdf>

松井 英章「電力自由化と地域エネルギー事業」(2016年7月10日)

<https://www.jri.co.jp/file/report/jrireview/pdf/7041.pdf>

みんな電力株式会社 (2016年7月13日)

<http://corp.minden.co.jp/>

野村牧場 (2016年8月18日)

釧路市役所総合政策部都市経営課 (2016年8月19日)

<http://www.city.kushiro.lg.jp/>

## インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

特になし。

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。